

2017年度第1回 福祉社会フォーラム

子どものwell-beingを支える

保育者と遊びをめぐる問題

日時：9月22日（金） 13時～17時

場所：稲盛記念会館 105教室

- 話題提供1 加用文男氏（元京都教育大学教授）
「『保育者の労働実態ビデオ』（1997年）制作から
「光る泥だんご」研究へー」
- 話題提供2 黒澤祐介氏（大阪青山大学准教授・2006年度本学
福祉社会学研究科修了生）
「保育におけるしあわせとは何か？～保育士の満足感と遊び～」

待機児童問題との関連で保育者不足や“ブラック保育園”等の問題がマスコミで取り上げられるようになりました。本フォーラムでは、子どものwell-being：権利の尊重と実現という観点から労働者としての保育者、「遊び」の問題を取り上げます。

今から20年前に加用氏が4か月間朝から夜まで保育現場に密着参観して制作された貴重なビデオを視聴、解説していただき、黒澤氏からは、保育者の悩みや労働実態、同僚性についての京都市公立保育所との5年間にわたる協働研究をもとに報告していただきます。

大人、研究者、保育・教育者、親、労働者……様々な立場からの意見交流を期待しています。

■NHKにんげんドキュメント「光れ！ 泥だんご」

（2001年6月14日放送）

「幼児教育が専門の京都教育大・加用文男教授が、近くの保育園にピカピカに光る泥だんごを持ち込んだ。目を輝かせ、泥だんご作りに熱中していく園児たち。上手く作れなくても、何とか自分で完成させようとする姿を通して、子どもがどんなことに興味を示すのかを見つめる。（NHKアーカイブズより）」



（加用文男氏の単著より一部紹介）

- 「幼児の虚構的行為の発達に関する実験的研究」．[教育心理学研究, 28 (4), (1980)]
- 「言語および対人関係に異常を示す発達遅滞児のケース研究」．[障害者問題研究, 31, (1982)]
- 「ルール遊びと子どものプライド」．[心理科学, 10(1), 23-32(1986)]
- 『子ども心と秋の空』．[ひとなる書房, 1990]
- 『忍者にであった子どもたち-遊びの中間形態論-』．[ミネルヴァ書房, 1994]
- 『光れ！泥だんご』 [講談社, 2001]
- 「感情の身体説と『非対応感情』」 [心理科学, 25 (1), (2005), 74-88]
- 「余暇論の呪縛-ジャックアンリオからみたホイジンガとカイヨワ」．[心理科学, 34 (1), 68-83 (2013)]
- 『遊びの保育の必須アイテム-保育の中の遊び論』．[ひとなる書房, 2015]
- 『子どもの「お馬鹿行動」研究序説』．[かもがわ出版, 2016]

（黒澤祐介氏の主著）

- 黒澤祐介「ケア・コミュニティ・世代間交流」（2010）、広井良典編『コミュニティ』、勁草書房
- 黒澤祐介「保育における拡大された同僚性の検討」（2012）、大谷学会「大谷学報」第92巻第1号
- 黒澤祐介・服部敬子『若手保育者が育つ保育カンファレンス』（2016）、かもがわ出版